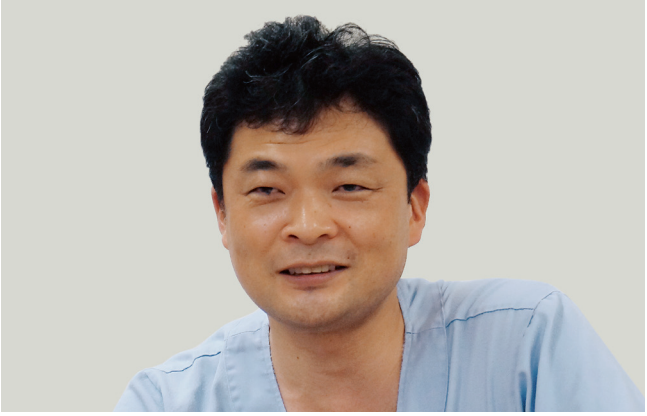
公立八女総合病院

治療の質向上とスタッフの成長を実現した多職種協働肝疾患診療。

公立八女総合病院（以下、八女総合病院）では2011年5月に「チームかんぞう」を結成し、多職種協働による肝疾患診療体制を構築した。そして、同年6月からは肝疾患患者を対象とした「かんぞう教室」を開始。医師、看護師、薬剤師、栄養士、メディカルソーシャルワーカー、臨床検査技師、診療放射線技師、医療事務、理学療法士など多くの職種が活動に参加し、2013年8月までの約2年間に43回を開催した。



肝臓内科部長
永松 洋明先生

「チームかんぞう」に多職種の英知を結集

八女総合病院は福岡県南部に位置する八女・筑後医療圏における肝疾患診療の要となる医療機関である。

特に、肝がん及びウイルス性肝炎治療においては、先進治療に精力的に取り組み、肝がんに対するラジオ波焼灼術年間70件、肝動脈塞栓術年間200件、肝動注化学療法年間100件（短期動注70件、埋め込み30件）の実績を誇る。肝動注療法はNew FP療法を中心に手がけ、肝動脈化学塞栓術（TACE）不応例や脈管侵襲例に対する放射線治療の実績も多い。また進行肝細胞癌に対してNew FP療法によるdown-staging後の肝切除術を施行するなど、内科、外科、放射線科が連携して国内最高レベルの集学的治療を実施している。

また、C型慢性肝炎に対するテラプレビル３剤併用療法導入件数もすでに50件を上まわる。八女総合病院の肝疾患診療を牽引する永松先生が「チームかんぞう」発足の経緯を説明する。

「福岡県の肝がん死亡率は全国ワースト２位で特に八女・筑後医療圏はC型慢性肝炎の患者さんが非常に多い地域です。我々は肝がん、肝炎の先進治療を推し進めてきましたが当院を受診する患者さんが急激に増え医師への負担が増していきました。

一方、肝疾患の治療には薬物療法や食事療法、日常生活を含めたさまざまな指導管理に多くの専門職種の助けが必要です。そこで、肝疾患診療の委員会活動を組織すべく、各職種の管理者に要請して担当者を決めていただき、『チームかんぞう』を結成することとなりました」（永松先生）

八女総合病院では従来からNST等のチーム医療活動を行ってきたが特定の疾患を対象に多職種で取り組む委員会活動はこれが初めての試みだ。結成当時を看護部の小川聡志氏が振り返る。

「チーム医療の一員としてどんな活動をするかをつかむために『何ができるか』と自らに疑問を投げかけ、患者さんの声に耳を傾けながら手探りで活動を開始しました」（小川氏）

肝疾患患者を対象に「かんぞう教室」を開催

2011年５月に「チームかんぞう」を結成し、翌６月から主たる活動として、患者が疾患や治療を正しく理解し治療に向き合うための啓発を目的に「かんぞう教室」（以下、教室）を開始。以来、2013年８月までの約２年間に計43回を開催した。

看護部
小川 聡志氏

薬剤科
平田 久美子氏

月に１回委員会を開催し、メンバーで協議して教室の内容を練り込んだ。教室１回当たりの時間は30分とし、メンバーが専門性を生かしたレクチャーをした後、参加者からの素朴な疑問に答える。また、毎回アンケート調査を行い参加者のニーズ把握に努め、その後のプログラムに反映させた。教室は順調に滑り出したが、試行錯誤も多かった。

「当初は月に２回、その後、月１回の開催となりしましたが、３ヵ月に１回は各メンバーに担当がまわってきます。薬は薬剤師、食事は管理栄養士が担当しますが、看護師から話せる話題は限られますので、テーマ選定に苦労しました。そこで、患者さんの訴えに注目してみると、患者さんは『良い患者でいよう』という心理から療養上必要な情報を医師に伝えていない傾向があることに気づきました。そこで、このような埋もれやすい訴えを引き出すことをイメージして、看護師からのレクチャーの中身を組み立てるようになりました」（小川氏）

チームかんぞうの皆さん

薬剤科の平田久美子氏も、提供する話の組み立ては貴重な経験になったと感じている。

「アンケート結果を参考にしながら回を重ねるごとに、患者さんが薬のどこに興味を抱いているかがわかり薬剤師として何をレクチャーすれば良いかイメージできるようになりました」（平田氏）

教室には繰り返し参加する患者が少なくない。栄養科の泉里紗氏は、そこでいろいろな気づきがあったという。

「患者さんにとって食事がきわめて高い関心事であることを実感しました。多くの治療や検査は病院から与えられるものですが、食事は患者さん自らの意思で取り組めることです。その点が繰り返し参加するモチベーションになっているのかもしれません。教室でたくさんの質問に答えるうちに、患者さんが具体的にどんなことに興味があるかもわかるようになりました」（泉氏）

「食事の話は医師にとっても参考になることが少なくありません。たとえば、たんぱく質を50gに制限するとして、何をどれくらい食べれば良いかと聞かれると答えるのは難しいものですが、教室で管理栄養士のレクチャーを聞き、我々も具体的にイメージできるようになりました」（永松先生）

外部との情報交換で活動の質を高める

2012年10月、第20回日本消化器関連学会週間 JDDW2012のパネルディスカッション「チーム医療で提供する最善の肝臓病診療」にて、小川氏は「チームかんぞう」の取り組みを発表した。

「当院では2011年10月に肝臓食を一新し肝硬変の進行度によって４種類のきめ細かいメニューを開発しました。JDDW2012では、永松先生の指導のもと、新しい肝臓食が入院中の栄養状態に与える影響について検討し発表しました。著名な医師がパネリストを務めるセッションで看護師の私が発表することに恐縮しましたが多職種が一体となって治療計画、栄養管理を実施する重要性を示す貴重な体験ができました」（小川氏）

「看護師の小川氏が発表してくれた

かんぞう教室の様子

栄養科
泉 里紗氏

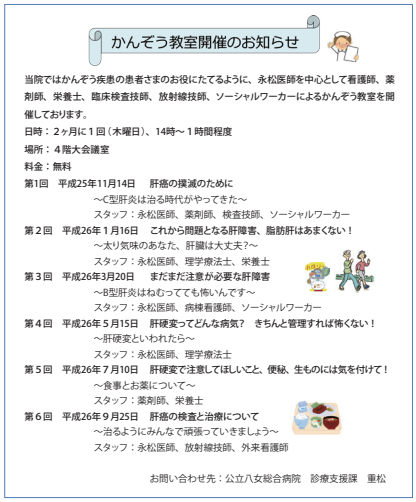
リハビリテーション科
楢尾 隼人氏

ことでチームのモチベーションがあがりました。今後は、他の職種の発表も支援していきたいと思います」（永松先生）

JDDW2012での発表は「チームかんぞう」の取り組みをさらに発展させるきっかけにもなった。同じセッションで発表した縁で、山口大学医学部附属病院と多職種での交流会が実施されたのだ。山口大学から学んだ新たな取り組みを参考に、肝疾患患者の運動療法に着手。リハビリテーション科から理学療法士の楢尾隼人氏がチームに加わった。

「運動療法の領域において、肝疾患はまだ確立されていない分野です。以前は安静の必要性が強調されてきましたが、近年は、適度な運動であれば肝障害は悪化しないとされ、過度な安静がもたらす弊害を防ぐメリットが期待されています。チームに参加してからは最新のエビデンスを調べ、臨床経験を積みながら運動の指導にあたっています」（楢尾氏）

【資料】かんぞう教室開催告知



かんぞう教室開催のお知らせ

当院ではかんぞう疾患の患者さまのお役にたてるように、永松医師を中心として看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師、放射線技師、ソーシャルワーカーによるかんぞう教室を開催しております。

日時：２ヶ月に１回（木曜日）、14時～１時間程度
場所：４階大会議室
料金：無料

第1回　平成25年11月14日　肝癌の撲滅のために
～C型肝炎は治る時代がやってきた～
スタッフ：永松医師、薬剤師、検査技師、ソーシャルワーカー

第２回　平成26年１月16日　これから問題となる肝障害、脂肪肝はあまくない！
～太り気味のあなた、肝臓は大丈夫?～
スタッフ：永松医師、理学療法士、栄養士

第３回　平成26年3月20日　まだまだ注意が必要な肝障害
～B型肝炎はねむってても怖いんです～
スタッフ：永松医師、病棟看護師、ソーシャルワーカー

第４回　平成26年５月15日　肝硬変ってどんな病気？　きちんと管理すれば怖くない！
～肝硬変といわれたら～
スタッフ：永松医師、理学療法士

第５回　平成26年７月10日　肝硬変で注意してほしいこと、便秘、生ものには気を付けて！
～食事とお薬について～
スタッフ：薬剤師、栄養士

第６回　平成26年９月25日　肝癌の検査と治療について
～治るようにみんなで頑張っていきましょう～
スタッフ：永松医師、放射線技師、外来看護師

お問い合わせ先：公立八女総合病院　診療支援課　重松

職種間の相互作用でステップアップ

「チームかんぞう」の取り組みは職種間のコミュニケーションを密にし、互いの専門性を高め合う効用を生んでいる。

「日常の看護の中で生じる何気ない疑問を医師や各専門職種にその場で気軽に質問でき、その場で解決できるようになりました」（小川氏）

「運動と栄養は密接に関連しますが、判断に迷ったときは、管理栄養士に相談でき、互いの弱点を補い合えます」（楢尾氏）

互いの専門性が高まることに呼応して、教室も新たなステージに突入。2013年11月からは、テーマを疾患や病態ごとに設定し、２ヵ月に１回、１時間の枠で複数の職種がレクチャーするスタイルにリニューアルした（【資料】）。

「薬、栄養、運動といった職種ごとのテーマ選定では、患者さんは何度も教室に足を運ばないと自身の病態に関連した話をすべて聞くことはできませんが、疾患や病態ごとのテーマ設定であれば、自身の病状に合った教室に参加し、疾患の全体像を体系的に学べます。事前に職種間の調整が必要となり準備の負担は増えましたが、患者さんのメリットは増したと思います」（平田氏）

取り組みを加速させる「チームかんぞう」の今後について、永松先生が語る。

「医師が気づかない患者さんの情報がタイムリーに共有され、治療に反映される。患者さんが自身の病態や治療の理解を深め、治療に主体的に向き合うようになる。『チームかんぞう』の誕生以来、そんな現象が珍しくなくなりました。同時に、各職種が互いに助け合い、専門性を高め合って成長を続けていることを実感しています。

一方、八女・筑後医療圏には未治療で放置されている肝疾患患者が数多くいらっしゃるはずです。今後は教室で得たノウハウを市民に向けた疾患啓発に発展させていきたいと思います」（永松先生）

DATA

公立八女総合病院
所在地：〒834-0034
福岡県八女市高塚540-2
TEL：0943-23-4131
病床数：300床（開放型30床含む）
URL：http://www.hosp-yame.jp/hospital/
＊同院ホームページより転載

【資料】：八女総合病院より